カルメル
霊性センターニュース

新しくなった十字架の道行きのレリーフ（宇治カルメル会修道院）

2020 年 10 月　　368 号

【教会からの巻頭の言葉】

（現代ヨーロッパ最高の知性と呼ばれるジャック・アタリのことば）

「2050年の世界は、いったいどうなっているのであろうか。はたして我々は、2100年へ向けての心構は出来ているのであろうか。

我々の子供や孫たちの世代は、豊かな社会に生きることはできるのであろうか。それとも、我々の世代を恨みながら、地獄の底を這い回ることになるのであろうか」

（『21世紀の歴史』（2006年）序文から）

回勅『ラウダート・シ』第4章「総合的なエコロジー」より

……2020年5月24日～20201年5月24日『ラウダート・シ特別年』のために……

・「滅亡の予告は、もはや皮肉や軽蔑をもってやり過ごせるものではありません。実際わたしたちは、将来世代に瓦礫と荒廃と汚物を残しつつあります。消費と廃棄、そして環境変化の進行速度が、地球の許容量を超えようとしており、現代のライフスタイルは持続不可能なもので、今でさえ世界のあちこちで周期的に生じている破局を早めるばかりなのです。」（161）

・「わたしたちは、後続する世界の人々に、今成長しつつある子どもたちに、どのような世界を残そうとするのでしょうか。…それは、この世界でわたしたちは何の為に生きるのか、わたしたちはなぜここにいるのか、わたしたちの働きとあらゆる取り組みの目的はいかなるものか、わたしたちは地球から何を望まれているのかといった問いです。ですから、もはや、将来世代のことを考慮すべきだと言及するだけでは足りません。わたしたち自身の尊厳こそが危機にさらされていると理解する必要があります。」（160）

・「共通善の概念は、将来世代をも広く視野に収めるものです。後続世代も逃れえない共通の運命を度外視することがどれほど有害な結果をもたらすかを、わたしたちは、世界的経済危機によって痛感させられています。もはや、世代間の連帯から離れて持続可能な発展を語ることはできません。将来世代に残しつつある世界がどのようなものかをひとたびかんがえはじめれば、わたしたちは物事を違ったふうに眺め、この世界が無償で与えられ、他者と分かち合うべき贈り物であることに気づきます。」（159）

目次

教会からの巻頭の言葉・・・・・・・・・・・・・・・・1

目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

キリスト教放送局 FEBC のご案内・・・・・・・・・２４

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・２５

東京・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６

京都・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２９

通信深読お申込みのご案内・・・・・・・・・・・・３０

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・３１

郵送お申込みのご案内・・・・・・・・・・・・・・３８

あとがき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３９

心の泉

十字架の道行き（宇治カルメル会修道院）

第三巻

第三十一章　創造主を見いだすために、一切の被造物を捨てる

２　神との一致

しかし、それに達するためには、霊魂を高く上げ、自分自身を忘れさせる神の大きな恵みが必要です。人間がこの高さに達し、この世の事柄から解放され、神とまったく一致するまでは、彼の持っているものは、それが何であれ大したものではありません。唯一無限、永遠の善以外の何事かを、偉大なもの、尊いものと考える人は、いつまでもこの世では卑しい人間であり、来世では、神の王座まで上がれないのです。

神以外のものはすべて無であり、また無であると考えなければなりません。神に照らされた敬虔な人の知恵と、博学な人の知恵とは、大いに差があります。人間の知恵をもって、あくせくとして積んだ知恵よりも、神に照らされた人の知恵のほうが、はるかに尊いのです。

３　節制の必要性

観想を望む人は多いが、それを得るために必要な手段を実行する人は少ないのです。またまったく節制に気をとめず、外的な業や形にだけ気をとめるのも、大きなさまたげです。とるに足りないことのために労苦し、心を砕くのに、霊魂のことを真実の潜心をもって考えることのほとんどない私たちが、なぜ霊的な人だと思われようとするのだろう。私たちはどんな霊に導かれて、いったい自分を何物だと思っているのだろう。

４　欲を排除

ああ、あわれなのは私たちです。わずかな時間は潜心するが、外のことにすぐ気を奪われて、自分のおこないを厳密に調べてみようともしない。私たちは、心の執着がどこに向かっているかに注意していない。また、自分がいかに不潔であるかを心苦しいとも思っていない。不純な欲は、すべての人間を迷わせ(創世記６・12 参照)、そのために大洪水が起こったのです。私たちの心が汚れているからこそ、そこから出るおこないも悪いのです。それは当然のことで、内面的な徳が衰えている証拠です。清い心から出るものこそ、よい生活の実りです(一テモテ 1・5 参照)。

５　真の徳

人は、他人の功績を尋ねたがるものです。しかし、どれほどの徳をもっておこなったかには、注意を向けようとしません。強いか、金持ちか、美貌(びぼう)か、才能があるか、筆が達者か、声がよいか、よく働くか、それらについては注意深く調べます。しかし、どれほど謙遜だったか、柔和だったか、忍耐があったか、敬虔だったか、霊的な人だったかについて調べようとする人は少ないのです。世の人は、外部に目をとめ、神の恵みは人間の内側に向けられます。前者は往々にして誤り、後者は過ちに陥らないように神に希望を置きます。》

2020－10　　　　　　　　　　　わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる

「わたしたちは創造主、他の人々、他の被造物と自分たちを結びつける絆を台無しにしてしまいました」と教皇フランシスコは神と被造物、人々との絆を深めるよう繰り返しメッセージを送られています。新型コロナ・ウイールスの世界的感染拡大によりわたしたちは様々な体験を強いられていますが、この体験をとおして「世の終わりまでいつもあなたがたとともにいる」と言われたキリストへの信頼を深めることができますように、今月祝う聖人方:リジュのテレーズ(1 日)、守護の天使の祝日(2 日)、アッシジの聖フランシスコ(4 日、今年は主日が優先されます)、アビラの聖テレサ（15 日）の助けを願いたいとおもいます。

500年以上の時間の流れにも、聖テレサの影響は衰えることなく現在もわたしたちを神へと方向づけて導いています。コロナ・ウィールスの世界的感染拡大にあたってのさまざまな出来事、困難、問題をかかえながら、人間の尊厳を保って生き抜くのは決してやさしいことではありません。この「時の流れ」の中で変わることなく、流されることなく、そこに常に存在するのは神だけです。

「すべてが過ぎ去る中で常に代わることのない方、神をわたしは探し求めます。その方はどこにおられるのでしょう。わたしはその方をわたしのうちに見つけました。・・・この方が行かれるところなら、どこへでもわたしはついて行きます。・・・主よ、あなたはいつもわたしとともに歩んでくださいます。」と神秘家テレサは言います。

修道院創立に向かうカルメル会改革者テレサ

わたしにつながっていなさい。
わたしもあなたがたにつながっている。　ヨハネ 15・4

わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、
わたしたと父はその人のところに行き、いっしょに住む。　ヨハネ 14・23

信仰を持つことによって,
あなた方の心のうちにキリストが住まわれますように。エフェソ 3・17

わたしは世の終わりまで、
いつもあなたがたと共にいる。
マタイ 28・20

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

伊従　信子(いより　のぶこ)
ノートル・ダム・ド・ヴィ

創造主への賛美（35）

九里（くのり）　彰

「自己賛美」の誘惑は、自己を世界の中心に置くことであり、すべてを造られた真に世界の主である神との生きた関係を見えなくしてしまう。その結果、「創造主への賛美」は心からのものではなく、表面的な口先だけのものとなってしまうと思われる。絶えず人から高く評価され、尊敬されることを無意識のうちに望み、そのために、前回見たたとえの中のファリサイ派の人のように、自分がいかに正しい人であるか、良い人であるかを神と人々の前に誇るのである。キリストが激しく糾弾した律法学者とファリサイ派の人々の偽善である。

しかし、前回のたとえにあったように、「義とされて家に帰ったのは」、徴税人であって、ファリサイ派の人ではなかった。彼には、「自己認識の不徹底」が挙げられる。「神さま、罪人の私を憐れんでください」という謙遜さはないからである。彼はすでに（律法の遵守という行ないを通して）自分で自分を義としており、自分が罪人であることを認めようとしていないからである。表面的には、神殿で神に向かって祈っているが、実際は、神に向かっているというより、人々に、あるいは自分に向かって祈っていると言った方がよい。また神に救いを求める必要はないのであるから、救い主（メシア、キリスト）も必要ないのである。

だが、「だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる」のである。キリストの言われる謙遜は、人の前での、言うなれば相対的な謙遜ではなく、神の前での絶対的な謙遜である。前者は、口先だけの社交辞令的なところがある。自分よりはるかに優れた人の前では、謙遜をよそおうが、自分より劣っている（と自分に思われる）人の前では、傲慢な態度を取る。謙遜と傲慢が絶えずくるくると変わり、とどまることがない。この場合の謙遜は、絶えず自分を誇ろうとしている心の裏側にすぎず、偽りの謙遜と呼ぶことができる。これに対し、後者は、神の前に立つ時の真の謙遜である。

上述のキリストの言葉にある「高ぶる者」は、時と場合によっては「へりくだり」、偽りの謙遜を示すことがあり得る。これに対し「へりくだる者」は、徴税人のように、真の謙遜を示す者として理解することができると思われる。

アビラの聖テレジアは、真の謙遜の大切さを、繰り返し説いている。

（続く）

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（150）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

アビラの人魚の誘惑

ある夜、ヨハネ修士は、小さな家で静かに夕食を取っていました。この家は、母テレジアが御託身修道院の修道女たちの聴罪司祭である彼と彼の同僚のために建てたものです。

突然、美しい若い女がよくない意図をもって彼の前に現れ、彼を苦境に立たせました。

聖人の聴罪司祭であるホアン・エヴァンヘリスタ修士の方が、このことについて私たちにもっとよく語ってくれることでしょう。ヨハネは何年も後に、このことを彼に明らかにしたのです。

「かつて（ヨハネ神父は）、若い女性がある時期、彼に言い寄り、つきまとっていたと私に語りました。彼はアビラの修道女の聴罪司祭でした。彼が無頓着であるのを見ると、彼女はある夜、彼がいた家の裏庭に隣接する裏庭を通って入り込み、彼がいる所へやって来ました。彼を誘い、強く迫りました。主は、彼女を家から追い出すように彼を助け、彼はその誘惑に打ち克ちました」。

お分かりのように、それは一度だけの誘惑ではなく、この夜陰に乗じた侵入に至るまでの長い一連の誘惑なのです。

そしてこの聴罪司祭はこう付け加えています。「彼は私にしばしば、それほど抜き差しならない状態に陥ることはそれまでなかったと言いました。というのも、彼女は若く美しい容姿で、他にも良い長所をいろいろ持っていたからです」。

実際には同じことを述べている他の報告では、単純に彼女を「家から追い出した」のではなく、「彼女にその罪ややっていることの悪を意識させるようなことを、彼は彼女に話すことができたのです。そこで彼女は入って来たところからもどり、家に帰ったのです」。

そしてこう結んでいます。「そのことを、聖人に関するこの口頭の証人は知っていました。彼は聖人とまったく気さくに交際していたからです」。

海の妖精、人魚について、十字架のヨハネは、詩句の中で彼女たちを不死の者としながら、何度も語っています（CB20, 7, 10;21, 15-16）。

しらべも麗しい七弦琴と
人魚の歌によっておまえたちに願う。

（P. 九里訳）

年間 第27主日

（マタイ２１：３３－４３）

今日の福音の個所は、先週の福音、ある人の二人の息子の話の続きの話になります。その話は、父からぶどう園に行き働きなさいと言われ、兄は「いやです」と答えたが、後で考え直して出かけた。弟は「承知しました」と答えたが出かけなかった。どちらが父親の望みどおりにしたか・・・。考え直し悔い改めて行動した者が神の望み通りにし、み心に叶い、先に神の国に入る。今日の個所はこの話の更なる説明の譬え話ですね。

ある家の主人がぶどう園を農夫に貸し旅に出た。そして収穫の時が近づいて僕たちを、送ったけれども、袋だたきにし、殺し、石で打ち殺し、僕たちを前よりも多く送ったが、同じ目に遭わせた。そのため主人は自分の息子を送ったが、農夫たちは息子を捕まえ、ぶどう園の外に放り出し殺してしまう。ぶどう園の主人が帰ったらどうするだろうか。悪人をひどい目に遭わせて殺し、ぶどう園は季節ごとに収穫を収めるほかの農夫たちに貸すに違いない。

イエスの言葉は、祭司長たちやファリサイ派の人々には厳しい言葉であった様です。今までのイスラエルの歴史の中で、神が人々の元に遣わす人々を迫害した事実を述べ、これから行われることの預言的な話として息子を殺す話をされ、その後、実際に神から遣わされた神の独り子イエスを人々は、十字架につけ、殺すことになったわけです。

最後にイエスは言われました。神の国はあなたたちから取り上げられ、それにふさわしい実を結ぶ民族に与えられる・・・と。このことは、その後の節の中で語られる様に、その場においては直接的に、祭司長たちやファリサイ派の人々に語られたものでした。　しかし「みことば」を、今日、神が私たちに語り掛ける言葉として受け止める私たちは、どの様に受け止めたら良いのでしょうか。私たちの心にはどの様に響くのでしょうか。

自分は祭司長やファリサイ派の人々ではないので良かったと思う方もあるでしょう。でも良く考えてみると、キリスト者である私たちが、今自分がおり任されている場で、誠実に働き生きていないのであれば、神からの言葉やメッセージを伝える人を無視して今日のぶどう園の農夫の様な生き方になってしまっているかも知れませんね。それぞれ自分の生き方を振り返り、神との関りを振り返り、神に立ち返って、キリスト者としてふさわしく歩むことができます様に。そうでないと神の国は取り上げられ、ふさわしい実を結ぶ民族に与えられるのですから・・・。

（Fr.　古川利雅）

年間 第２８主日（A）

（マタイ２２：１－１４）

聖マタイは、この譬え話で神のみ國とその国に属することになる人々について語っています。この譬え話は三つの部分に分かれています。一番目は、二人の招待者についてです。二番目は、招待されていないいろいろな人たちへの呼びかけです。三番目は、宴席に参加する場合の礼儀の基準のです。

今日の譬え話の最後の言葉、「招かれる人は多いが、選ばれる人は少ない」では、婚宴の席に招かれる人がずっとそこに留まることができるのではないということを示しています。譬え話の中での婚宴の衣装は、来客の過去はどうであれ、キリストに従っているということを象徴しています。洗礼の秘跡により、聖霊とキリストの教えの衣をまとい、主の婚宴の宴席への招待状を与えられています。キリストの生活と福音の教えに従い、徐々に変化していきます。キリスト者として私たちは、今日自分の婚礼の衣装が本当にきれいかどうか反省するように呼ばれています。キリストとその教えにふさわしい仕方で従っているでしょうか？どの程度まで自分自身を愛に捧げ、イエスとイエスの民に奉仕しているでしょうか？

私たちはキリストの真価を表すように生きることを求められ、招かれています。教会のメンバーとして、私たちはその生活に積極的に貢献し、神の愛と赦しを証しするように求められています。この譬えは、参列だけでは十分ではないことを気づかせてくれます。正しい回心がなければ、婚宴の席から排除されてしまうのです。

今日の譬えは、神は私たちを直ちに祝福してくださることも気づかせてくれます。誰でも全ての人が、過去はどうであれ、神の宴席に座るように同じ招待状を受け取ります。神はわけへだてなく全ての人を招いてくださいます。洗礼のときに招待状を受け取ります。ですから、それらを当たり前のことと軽く見てはなりません。キリストに従うことに、自己満足があってはなりません。汚れていたり、だらしない服装ではなく、きちんとした服装で参列するように求められています。敗者は神ではなく、私たちです。この譬えから、洗礼の約束に不忠実であったり、信仰や祈りに忍耐しない人は全能の神のみ前で答えなければならないことは明らかです。皆が呼ばれている間に、皆がその呼びかけに答えるとは限らず、神の招きを拒否したり、十分に受け入れない者もいます。神の子供として真っ白な衣服を着ないのは、救いを無視する人を意味しています。

神は十分な恵みを与えて下さり、私たちは恵みの贈り物と協力するように求められています。主の高貴な宴席に座るために、婚宴の衣装を清く、シミもなく保つことができるように祈りましょう。

(Sr. Paulina)

年間 第29主日

（マタイ２２：１５－２１）

「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」。

イエスの絶妙な回答にファリサイ派は驚き入ります。イエスを罠にかけて陥れようとの企ては砕かれてしまいました。もしイエスが、「皇帝に税金を納めよ」と答えれば、ローマ帝国に反感を抱いていたユダヤ人からは信望を失います。もし、「納める必要はない」と答えれば、ローマ帝国への反逆者だとして皇帝に訴えられてしまいます。

結局、ファリサイ派自身、ローマに反感を抱きながらもその下で生きていたのです。また、都合よくローマにおもねったりもしていたのです。イエスを殺す計画においてもローマの力を利用しました。

イエスにとって、そんな彼らは手ごわい相手ではありません。彼らに銀貨を持ってこさせ、そこに刻まれている肖像と銘を確認させ、答えさせます。「これは、だれの肖像と銘か」。「皇帝のものです」。

イエスは、「あなたたちも、皇帝が作った貨幣を大切に使っていますね。」「では、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」と答えられます。ここで、イエスは「神のものは神に」と付け加え、神が大切であり、皇帝とは別格であることを明言します。神を大切に敬いつつも、皇帝の下での貨幣制度に従う姿勢を示します。皇帝を神とは考えませんが、皇帝の支配する社会の中で生きていく必要のあることを示します。彼らは納得するしかありませんでした。

私たちは、神をもちろん信じ、神の支配を望みます。だからといって、この世の制度を一方的に否定することもできません。神の支配とは別物ですが、現実問題として、私たちはこの世の制度の中で生きなければなりません。イエスは現実主義者なのです。この世の制度が神の教えから離れていれば、イエスだって歯に衣を着せずに批判するはずです。しかし、そうでない場合は素直に受け入れるのです。現実を生きていく中でこの世の制度は必要です。この世の制度を神の国に近づけるためにこそ福音宣教の使命があるのです。

ファリサイ派の考えは極端であり、現実的ではありませんでした。現代でもカルト的な宗教では、自分の教団以外はすべてサタンの支配下にあるような考え方をし、政治などと無関係に生きようとる教団がありますが、それは大変危険です。現実にしっかりと足をつけて生きたイエスとは相容れません。極端な考えに気をつけましょう。

（今泉健 神父）

年間 第３０主日（A）

（マタイ２２：３４－４０）

まず本日の福音の背景を少しご説明しましょう。ファリサイ派の人々は、モーゼの律法と６１３個にも及ぶラビの教義上の伝統を守っていたのに対し、サドカイ派の人々は律法と預言者だけを信じ、ラビの伝統は信じていませんでした。そうした中、本日の福音の中の問いかけはファリサイ派とサドカイ派との間でよく議論されていたテーマでした。イエスの回答は、宗教の概要を示すだけでなく、私たちの生活の中心に据えるべき２つの大きな掟を示しています。

ユダヤ人の間で活発な論争の種となっていた「律法の中でどの掟が最も重要か」という疑問に対し、イエスは２つの掟を１つに統合しながら、１つ目の掟として次のとおり即答しました。「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」と。心とは知識や感情の中心であり、精神（たましい）とはいのちの源であり、思いとは知覚の中心です。つまり非常に大切な１つ目の掟は、神からモーゼに与えられた十掟のうち最初の４つをまとめています。私たちは、神を最優先して生きるように招かれているのです。

２つ目の掟も同じように重要です。「隣人を自分のように愛しなさい」。これは、十掟の後半６つの掟をひとくくりにしています。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして神を愛すれば、その愛は他者に向けて輝き出すはずであり、神の愛は、隣人と分かち合うためにあるものだと教えられます。片方だけへの愛ではなく、神と隣人という双方向への愛であるはずです。これこそ旧約聖書の本質であり、新約聖書の基礎です。イエスの答えは、ファリサイ派の人々のみならず、いつの時代においても私たち全員の生活の規則なのです。私たちの愛の行いは、まずは神のため、そして次に隣人、特に最も必要としている人のためであるべきです。神への愛は、自分の親、兄弟姉妹、子供たちへの愛よりも親密で深くなければなりません。

私たちは、この２つの偉大な愛の掟を礎としてキリスト者としての生活を築くことに呼ばれています。私たちの発する一言ひとこと、一つひとつの動作や態度の動機と指針は、神への愛と隣人への愛を２本柱としましょう。

(Sr.Paulina)

いのちの言葉　10月

誰でも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。

（ルカ 14・11）

福音書には、食事に招かれたイエスが快く応じる場面がしばしば描かれています。会食は出会いの場であり、友を作り、社交関係を築く格好の機会でした。

ルカ福音書のこの一節で、イエスは招待客たちの様子を観察します。人々は競って上席につこうとし、少しでも人より上になりたいという願望が浮き彫りになります。

イエスは心の中で、別の饗宴を思っていました。御父の家で、すべての子どもたちに供される宴、「偉いから招かれる」のではない宴です。そこでは上席は、他の人に仕えながら末席をあえて選ぶ人たちのための席です。だからこそイエスはこう明言されるのです。

誰でも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。

私たちは誰しも、貪欲、傲慢、人への要求、不満や愚痴を抱えています。そのような自分を中心に据えてしまうと、「偶像崇拝」の誘惑、つまり敬意にも信頼にも値しない“偽りの神々”を崇拝する誘惑に陥ってしまいます。

イエスがまず私たちに求めておられるのは、自分という「台座」から降りて、エゴイズムではなく神様を中心に据えるようにということでしょう。神様こそ、私たちの人生の特等席を占めていただくべきお方です。

大事なのは、神様のために場所を空け、神様との関係を深め、神様から福音的にへりくだる態度を学ぶことです。

「末席につく」とは、神様がイエスとして選ばれた、人に仕える者の席を、私たちも自分の意志で選ぶということです。

イエスは神でおられながらも、すべての人に御父の愛を告げ知らせるために、人間の置かれた状態の中でともに生きる選択をなさいました。

誰でも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。

イエスのこうした教えから、普遍的兄弟愛、架け橋を築き、共通善のために仕えることができる共同体を培う方法を学びましょう。男性も女性も、成人も子どもたちも、健康な人も病いの人も、皆が貢献できる共同体を。

イエスのように、私たちは恐れずに隣人に近づいて、困難なときも楽しいときも、ともに歩むようにしましょう。相手の良さを見出し、物質的な富も霊的な富も分かち合い、励まし、希望を与え、赦すこともできるでしょう。

そうして、神の子どもとしての愛と自由に到達できるでしょう。

自分の成功ばかりを追求する病に蝕まれた世界にあって、このように振る舞うことはまさに流れに逆らうこと、福音的な革命です。

「へりくだって、互いに相手を自分よりも優れた者と考え（なさい）」[1]と使徒パウロも書いているように、これはキリスト者の共同体の法則なのです。

誰でも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。

キアラ・ルービックもこう書いています。

「よく見れば、世の中はまったく違う法則のもとにあります。我先にという法則です。（…）これがどれほどの苦しみにつながるか、私たちもよく知っています。幾多の不条理、不正です。けれども、イエスはここで、今あげたような悪について直接取り上げて考えているのではなく、むしろ、そうした悪の根源にある人間の心について考えています。（…）

イエスは、私たちが心を入れ替え、それにふさわしい、新たな態度で、人々と正しい関係を築いていくことを求めておられます。

へりくだるとは、ただ野心を持たないということだけでなく、自分が本当に無であることを知り、神様の前に小さな者であることを自覚して、子どものように、神様のみ手にすべてを委ねることです。（…）

どうすれば謙虚になれるでしょうか。兄弟姉妹を愛するために、イエスのようにすることです。あなたが、人々に対してする行いを、神様はご自分になされたこととして受け取ります。へりくだること、それは兄弟姉妹に仕えることです。（…）そうすれば、やがて生まれてくる新しい世界において、また次の世において、私たちは高くあげられるでしょう。また、教会の中では、こうした真逆な状態はすでに現実のものなのです。実際、人に命令する立場にある人は、仕える者でなければならないからです。このみ言葉を実践する教会の姿は、人類にとって、来たるべき世界のしるしとなるでしょう。」[2]

レティツィア・マグリ

連絡先:フォコラーレ　東京 03-3330-5619/03-5370-6424　長崎 095-849-3812
E-mail:tokyofocfem@gmail.com
ホームページ: https://www.focolare.org/japan/

[1] フィリピ 2-3 参照
[2] C・ルービック 1995 年 10 月のいのちの言葉　参照

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

<< **Communications**（時事通信）>>　　２０２０年９月８日

卓越した女性、イエスの聖テレジア教会博士の栄誉50周年記念

イエスの聖テレジアが教会博士に挙げられて５０周年目を迎える記念のお祝いが、2020年９月27日に行われます。記念行事として、アビラ教区司教、跣足カルメル修道会、アビラカトリック大学、そしてカトリックのアイヒシュテット―インゴルシュタット大学との共催で、国際学会“卓越した女性、イエスの聖テレジア教会博士の栄誉５０周年記念”が企画されています。女性として初めて教会博士の栄誉を受けた記念日の９月２７日に開会式が執り行われます。この国際学会は、2021年４月12日～15日に行われます。

学会には、アキリノ・ボコス枢機卿、ローマのテレジア神学院のエミリオ・マルティネス神父OCDとシルバノ・ジョルダノ神父OCD、アビラの聖テレジア聖ヨハネ神学大学のロムロ・カルテス・ロンドノ神父OCD、が登場されます。その他には、リカルド・ベラズケス・ペレツ枢機卿、ベアトリズ・デ・アンコス モラレス博士、マリアン・スコロッサー博士、ロサール・ヴェアー博士、ブルカルド M. ザッフ博士たちが聖テレジアの生涯と業績を異なった見地からとらえて講演することになっています。

2020年９月27日の記念式典では、５０周年記念ミサがアビラのカテドラルで奉げられインターネットでライブ中継が配信されます。この行事のプログラムは次のとおりです。

- 16:30 学会からのプレゼンテーション
- 17:00 ジョアン・アントニオ マルコス博士の講演“イエスの聖テレジア、過去・現在を通して変革しながら私たちに語る聖女
  ……なぜ聖女は今も私たちを捉えつづけているのか？……
- 18:00 アビラのクリスト サルバドール 大聖堂での記念ミサ

詳細は、 http://congresosantateresadoctora.es/ をご覧ください。

（訳：小宮山延子）

糸巻き棒からペンへ(57)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス　OCD

「偉大な諸徳」と呼んでいる事柄について話した後で、ようやく彼女は、修道女たちの観想的次元での個人的な祈りについてゆっくり考察しています。彼女たちは個人的な部屋を持ち、孤独のうちにたっぷりと時間を過ごし、とりわけ朝と午後には沈黙の祈りを一時間もささげる隠遁者なのですから。けれども、この祈りは、神秘を理解しようとする知的努力としての黙想と理解されてはなりません。たとえば、ある人々は、「神秘を理屈だけで、また理解力でかたづけようとし、また神のあらゆる偉大さを学問で理解しようとしているように思われます」。これとは反対に、この祈りは、「友情の交わり」であり、そこではキリストとの愛のこもった関係が築かれるのです。ある学者たちが言っていることに反対しつつ、こう言っています。「多く考えることではなく、多く愛することです」と。

テレジアにとって本質的なことは、各人の個性を、その霊的生活の発展においても尊重することです。彼女は、何人かの聴罪司祭の無理解にとても苦しめられました。彼らは、自分が通ったのと同じ道を歩ませようとしましたが、彼女にはその道はなにも役に立ちませんでした（『自叙伝』27-28 章）。それゆえ、彼女は修道女たちには、まったく反対の態度を求め、さまざまな機会に次のように主張しました。「天国にはたくさんの部屋があるように、天国へ行く道もたくさんあるのです」（『自叙伝』13,13）。「神はただ一つの道だけですべての人を導かないと知ることは、とても重要です」（『完徳の道』17,2）。「すべての人に私たちの道を歩ませようとはまったく思いません」（『霊魂の城』第 3 の住居 2,13）。また院長たちが、自分の信心業や修道的実践を他の修道女たちにも課そうとすることの不適切を指摘しています。「修院長がたはみな、同じ徳、同じ才能に恵まれているわけではないので、修道女たちを自分の道から導こうとすることがたびたびあります。…とにかく、主が私たちを導かれる道は、千差万別です。修院長がたは、自分の好みで選んだ道を修道女たちに課さないよう、気をつけていなければなりません」（『創立史』18,6）。この点は、十字架の聖ヨハネが次のように書いていることと一致します。「神は各々の霊魂をそれぞれ違った道によってお導きになるからで、一つの道の様式が他の道の様式に半分でも共通しているようなことは、ほとんど見出されないくらいである」（『愛の生ける炎』3,59）。

（続く）

（P. 九里訳）

カルメル誌　新刊案内

2020年 秋号 No.378

《現代に生きる祈りの伝統》*******

キリストの御業の「模倣」から「記念」を生きる
　　レデンプトリスチン修道会　　立見悦子

****

信仰生活(再)入門(11)　聖書に学ぶ祈りの道(3)
　　—現代のための神のみことば、テレーズとともに①
　　片山はるひ

イエスの聖テレジアと福音宣教の一考察　　松田浩一

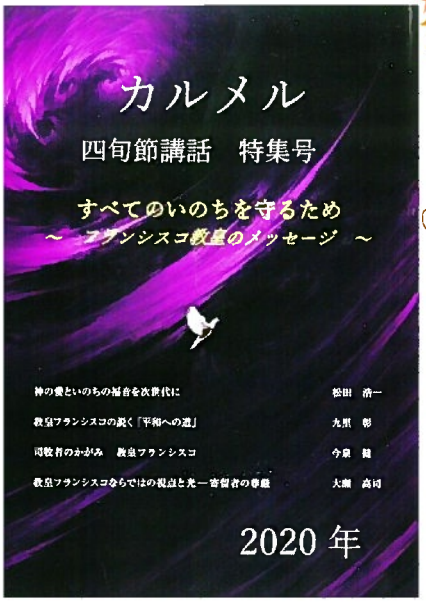
道の霊性(3)—道なき道を道として　　田畑邦治

キリストに伴われて季節を巡る(11)
　　—主のみ手は洗礼者ヨハネの上に　　伊従信子

ケイティ　忘れられない人　　森　みさ

カルメル会の会則に見る
　　アシェーシスと修道生活(11)　　九里　彰

霊的研究会講義録(9)—聖書・祈り・愛について
　　奥村一郎



2020年 特集号

「すべてのいのちを守るため」
—フランシスコ教皇のメッセージ—

神の愛といのちの福音を次世代に
　　松田浩一

教皇フランシスコの説く「平和への道」
　　九里　彰

司牧者のかがみ　教皇フランシスコ
　　今泉 健

教皇フランシスコならではの視点と光
　　—寄留者の尊厳
　　大瀬高司

ご案内　　1冊 520円　A5サイズ　50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、700円【520円（+送料 180円）】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費（年5冊：春夏秋冬+特集号　計　3,500円）を下記へお振込み下さい

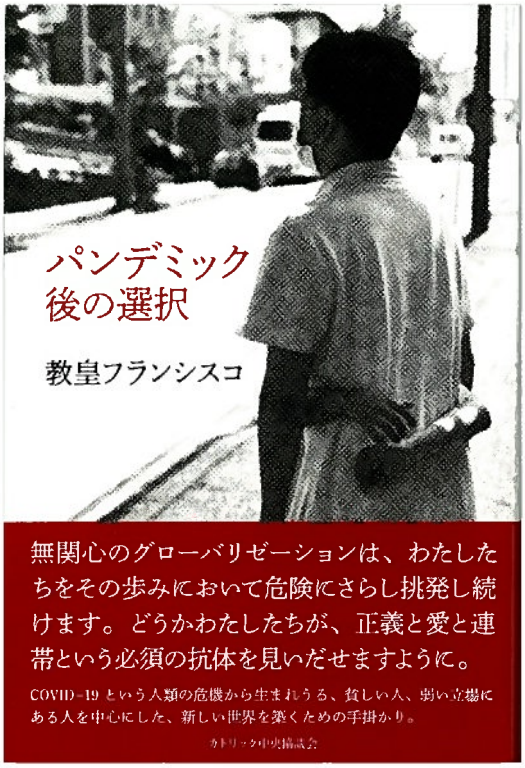
郵便振替:00190-4-195457　跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25　Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

書籍案内



『パンデミック後の選択』

著者：教皇フランシスコ
判型：四六・並製
ページ数：80 ページ
価格：本体 500 円（税込 550 円）
ISBN：978-4-87750-224-9
出版社：カトリック中央協議会

バチカン出版局より刊行された Life After the Pandemic の邦訳。パンデミックに言及する 8 つの文書を収録。高い感染リスクにさらされながらも他者に献身する人々や、収入が絶たれたり、在宅要請を守るのが難しかったりする弱い立場の人々に心を寄せつつ、困難な試練を新しい選択への好機に変えるよう励ます。単にパンデミック以前を取り戻すのではなく、連帯を示し、もっとも傷つきやすい人を中心にした社会を構築すべきとの呼びかけ。

目次・内容

- 序（マイケル・ツァーニー枢機卿, SJ）
- なぜ怖がるのか（特別な祈りの式におけるウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020 年 3 月 27 日、サンピエトロ大聖堂前にて）
- コロナ後への備えの重要性（ロベルト・アンドレス・ガラルド氏あて書簡、2020 年 3 月 28 日付）
- 新たな炎のように（2020 年復活祭ウルビ・エト・オルビのメッセージ、2020 年 4 月 12 日、サンピエトロ大聖堂にて）
- 目立たぬ兵士たち（草の根市民運動あて書簡、2020 年 4 月 12 日付）
- 再起計画（雑誌 Vida Nueva（新しい生）への書き下ろし、2020 年 4 月 17 日）
- エゴイズム――より悪質なウイルス（復活節第二主日（神のいつくしみの主日）説教抜粋、2020 年 4 月 19 日、サントスピリト・イン・サッシア教会にて）
- ストリートペーパー関係者へ（2020 年 4 月 21 日付書簡）
- 地球規模の問題を乗り越える（第 50 回アースデイについての一般謁見講話抜粋、2020 年 4 月 22 日）
- 付録（マリアへの祈り一、二）
- あとがき

新書紹介　　十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書　　翻訳刊行

『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話

〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス
訳者：九里 彰
判型：B6 判並製
ページ数：184 ページ
価格：本体 1,600 円+税
ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016
発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアーヌム教授。2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里　彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美　編

A５判・312 頁・2500 円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など――危機にさらされている人間の救済の道を探る。

――――目次――――

序　「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
1　東日本大震災と宗教／中下大樹
2　宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
3　東日本大震災に思うこと／佐藤純一
4　脱原発の倫理／久保文彦
5　何のために働くのか／神谷秀樹
6　グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
7　私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
8　関係の倫理学／清水正之
9　宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
10　V・フランクルのロゴテラピー／桑原直己
11　「神の子となる」――カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
12　「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
13　エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所　TEL:03-3322-7601　FAX:03-3325-5322
ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

2020年のご案内

年間テーマ　手をとりあい、自ら歩み出す

大瀬高司 師

好評の 2019 年の連載「カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎」に引き続き大瀬高司神父の新連載が始まります。

●近代日本の歩みとカトリック教会
——山本信次郎研究ノートより
大瀬高司（カルメル修道会司祭）

山本信次郎研究で得られた成果から、近代日本のカトリック教会での出来事や人物を取り上げ、これまであまり知られていないエピソードを中心に紹介します。

その他の新連載

●アンジェラスの鐘／加藤美紀（教育学者）
●知恵ある者たちのアフォリズム／加藤久美子（聖書学者）
●かたわらに、今、たたずんで／大野高志（日本基督教団牧師）
●聖歌と賛歌——民衆霊性と多様性から
　杉本ゆり（中世教会音楽研究者）
●新米神父の開拓奮闘記／大西勇史（広島教区司祭）
●いのちの交わりの場——エコロジカルな暮らしのために
　吉川まみ（環境学者）

継続連載

●典礼暦と季節の味わい（応用編）
　柳谷晃子（食文化研究所主宰）

月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

○口座番号：００１７０－２－８４７４５
○加入者名：オリエンス宗教研究所
○ご購読料：７５００円（税・送料込）
○備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年 11 回、8・9 月合併号）7500 円（税・送料込）一部定価 600 円＋税

オリエンス宗教研究所　〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5
Tel 03-3322-7601　Fax 03-3325-5322　https://www.oriens.or.jp/

サンパウロ

愛と英知の道

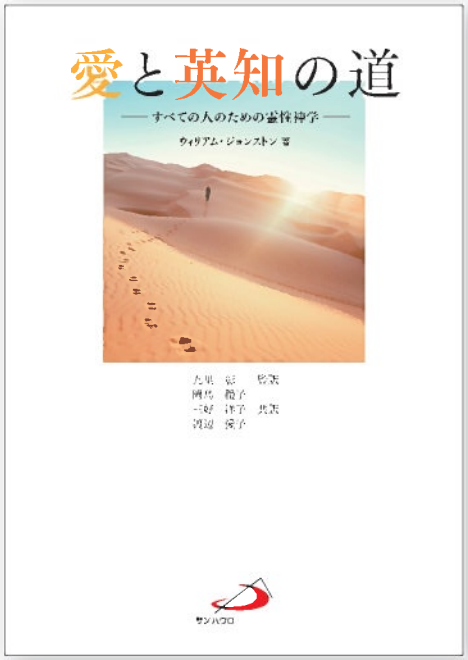
―― すべての人のための霊性神学 ――

ウィリアム・ジョンストン 著

九里　彰　監訳
岡島　禮子　三好　洋子　渡辺　愛子　共訳

西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21 世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。『すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが 16 世紀に向けてなしたことを、21 世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渇望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。



第一部　キリスト教の伝統
第1章　背　景（1）
第2章　背　景（2）
第3章　理性 対 神秘主義
第4章　神秘主義と愛
第5章　東方のキリスト教
第6章　愛を通して生まれる英知

第二部　対　話
第7章　科学と神秘神学
第8章　修徳主義とアジア
第9章　神秘主義と根源的なエネルギー
第10章　英知と〈空〉

第三部　現代の神秘的な旅
第11章　信仰の旅
第12章　浄化の道
第13章　暗　夜
第14章　〈愛のうちにある〉
第15章　花嫁と花婿
第16章　一　致
第17章　英　知
第18章　活　動
第19章　社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン　William Johnston S.J. (1925-2010)
北アイルランドのベルファストに生まれる。
イエズス会に入会し、26 歳で来日。
32 歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルペ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85 歳で帰天。

• A5判 • 600頁 • 並製 • 定価 3,400円+税 • ISBN978-4-8056-0064-1　C0016

福者マリー＝ユジェーヌ神父に導かれて

十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5　C0195
定価**540**円（税込）
【聖母文庫】287

第2版 好評発売中！

マリー＝ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネを生き、体験し、確認した教えなのです。ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの教えは現代の人々にも十分適応されます。また、神の命を伝え、実践的手段を示して聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の配慮が伝わってきます。（「はじめに」より）

神と親しく生きる
いのりの道

福者マリー＝ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャール 著
伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7　C0195　【聖母文庫】246
定価**540**円（税込）209頁

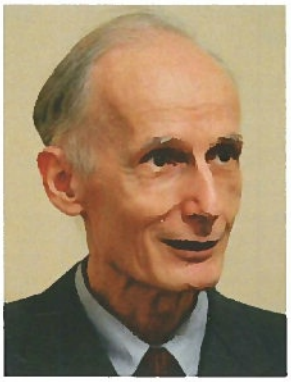
わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー＝ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8　C0195　【聖母文庫】268
定価**648**円（税込）281頁

ご注文・お問い合わせ先
聖母の騎士社　〒850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080　FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

（全五巻）四六版・４３４頁～６２８頁

各巻　本体 3、８００～5、０００ 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は４０余年の著述活動による１５０余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN 定価（本体＋税）
第1巻	**Ⅰ　超越体験　—宗教論** 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全 11 作、434p	9784862852151 3,800 円＋税
第2巻	**Ⅱ　真理と神秘　—聖書の黙想** 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全 35 作、544p	978-4862852175 4,600 円＋税
第3巻	**Ⅲ　信仰と幸い　—キリスト教の本質** 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全 38 作、628p	9784862852205 5,000 円＋税
第4巻	**Ⅳ　思惟の歴史　—哲学・神学的小論** 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐっての根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拡げて信仰生活の深みに掘下げる。全 41 作、448p	9784862852212 4,000 円＋税
第5巻	**Ⅴ　自己の解明　—根源への問いと坐禅による実践** 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です！」収録。全 35 作、470p	9784862852229 4,200 円＋税

●リーゼンフーバー，クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938 年ドイツ生まれ。1958 年イエズス会入会。1967 年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969 年上智大学文学部哲学科専任講師。1971 年東京で司祭叙階。1974 年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981 年上智大学教授。1989 年上智大学神学博士。国公私立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009 年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知　泉　書　館　〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166
http://www.chisen.co.jp

キリスト教放送局 **FEBC** 2020.10〜2021.3

2020年秋冬 番組案内

AMラジオ放送 **AM1566kHz** 毎夜9:30〜〈全国放送〉

インターネット放送 **www.febcjp.com**〈毎日更新〉

日

夜9：30〜

全地よ 主をほめたたえよ

主日礼拝取材番組

[第1] 日キ教会 高知旭教会

[第2] 福音ルーテル 神水教会

[第3] 日基教団 久万教会

[第4] 日基教団 中標津伝道所

[第5] 各地の教会

[第2〜5] 夜10:27〜

神からのメッセージ

グレゴリオ聖歌

橋本 周子

聖グレゴリオの家 宗教音楽研究所所長

月 火 水 木 金

[月〜金] 夜9:30〜

FEBC TODAY ―今日の聖書・今週の讃美歌―

恵子の郵便ポスト

FEBCメイン・パーソナリティー 吉崎 恵子

夜9：48〜

神父さま、こんなこと聞いてもいいですか？(再)

百瀬文晃 カトリックイエズス会司祭

お相手・吉崎恵子

夜9：47〜 再開

幸福宣言 ―主イエスの山上の説教に聴く

竹森満佐一 日本基督教団元牧師

夜9：47〜 再開

嘆きに応える神の御言

金田聖治 日キ教会 上田教会牧師

新 夜9：47〜

Session ―イエスのTuneに合わせて

早矢仕宗伯 「NCAMイエスの風」牧師

塩谷達也 ゴスペルシンガー

長倉崇宣

[第1] 夜9：37〜 再開

イエスとの対話の旅 ―現代霊性神学講座

中川博道 カトリック・カルメル会宇治修道院司祭

[第1] 夜10：25〜 再開

外からの「声」 ―FEBC HANGOUT!

新 [第2] 夜9：47〜

「時のしるし」を求めて コロナ時代の教会の模索

[第3・4] 夜9：37〜

闇の中に輝く「獄中書簡」(再)

小林和夫 ホーリネス東京聖書学院教会牧師

[第3・4] 夜10：20〜

Meguの CCM insight!

夜10：14〜

Echo of Voices

長倉崇宣

新 夜10：14〜

マイ・プレイリスト

夜10：14〜

主に向かって歌おう

飯 靖子 日基教団霊南坂教会 聖歌隊指揮者・オルガニスト

夜10：14〜

ザ・ストーリー ～一冊の本に込められた思い

服部みぎわ

夜10：28〜

御足の跡を

小池与之祐 日基教団 神の愛キリスト伝道所牧師

夜10：28〜

FEBC Sprout!

長倉崇宣

新 夜10：28〜

イエスから始めよう

夜10：28〜

聖書を開こう

山下正雄 RCJメディアミニストリー代表

土

夜9：30〜

旧約聖書のこころ―詩編―(再)

雨宮慧 カトリック・東京教区司祭、上智大学神学部名誉教授

夜9：53〜

Kishikoのひとりじゃないから

[第1〜3] 夜10：04〜

コーヒーブレイク・インタビュー

インタビュアー 吉崎 恵子・長倉崇宣

[第4・5] 夜10：04〜

交わりのことば 聖書の豊かさ

夜10：31〜

黙想のとき(再) 主よ、共に宿りませ

安保ふみ江

カルメル会の企画案内

カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19：10）

東京 上野毛 霊性センター

黙想企画　＊＊上野毛 聖テレジア修道院（黙想）＊＊

・祭日のミサに参加するために
　　チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時
【クリスマス】
　　１２月２４日(木)～２５日(金) 朝食 ≪講話なし、夕食なし≫

・聖書深読黙想会　(土曜日１８時～日曜日１６時)　　カルメル会士

　　１０月３１日(土) ～１１月１日(日)
　　２０２１年　２月２７日(土) ～２８日(日)

・一日黙想会：(水曜日１０時～１６時・昼食付)　　カルメル会士
　　《　カルメル会聖人に学ぶ黙想会　》

　　１０月２１日(水)　　１１月１８日(水)　１２月１６日(水)
　　２０２１年　１月２０日(水)　２月１７日(水)　３月１７日(水)

・一泊黙想会　(土曜日１６時～日曜日１６時)

　　１０月２４日(土)～２５日(日)　今泉健神父
　　２０２１年
　　１月２３日(土)～２４日(日)　今泉健神父
　　３月１３日(土)～１４日(日)　今泉健神父

・奉献生活者のための黙想会　(初日１７時～最終日朝食)　カルメル会士

　　１２月２７日(日)～１月　５日(火)

・青年黙想会(男女)　３５歳位まで(初日１６時～翌日１６時)　カルメル会士

　　２０２１年　３月２６日(金)～２８日(日)

・召命黙想会（男女）４０歳まで（初日１６時～最終日１６時）　カルメル会士

１１月　６日(金)～　８日(日)

・特別黙想会（初日２０時～最終日１６時）Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

１１月１３日(金)～１５日(日)

＊ 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。 お申込みの際には、ホームページ（http://www.carmel-monastery.jp）なども合わせてご覧下さい。

＊ こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。

＊ 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・E メール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25
聖テレジア修道院(黙想)
Tel:03-5706-7355　　Fax:03-3704-1789
E メール：mokusou@carmel-monastery.jp
ホームページ：http://www.carmel-monastery.jp

カルメル召命黙想会

イエスの友となるために

日　時　：　2020年11月6日（金）16時 ～ 8日（日）16時
場　所　：　カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）
対　象　：　召命を考えている、独身の青年男女（４０歳まで）
定　員　：　８名
費　用　：　一般　１０，０００円　　学生　５，０００円
締　切　：　2020年10月30日（金）
指　導　：　カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・ＦＡＸ・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093　世田谷区上野毛2－14－25
カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）
電　話：　０３（５７０６）７３５５
ＦＡＸ：　０３（３７０４）１７８９
E-mail：　mokusou@carmel-monastery.jp

宇治カルメル会　黙想会案内

長らく延期しておりました黙想の家の改修工事は
９月末より行っております。
黙想会の再開は下記より、個人・グループのお申込は
２０２１年１月よりお受けできます。

【長期間の黙想会】定員：１２名（午後５時～午前９時）※一般の方の参加も可能です

２０２０年　１２月２７日(日)夕食～２０２１年　１月６日(水)朝食　　中川博道神父

２０２１年　１月１２日(火)夕食～１月２１日(木)朝食　　中川博道神父

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします－

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけＦＡＸ、はがき、Ｅメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前９時～午後５時の間にお願い致します。担当が不在の場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合せ下さる様にお願い致します。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12
宇治カルメル会　聖テレジア修道院　（黙想）
Tel　0774-32-7016　Fax　0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/

朝日カルチャーセンターの

通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5 用紙）に、深読箇所で特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由にご自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解読」（A４２枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解読」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

＊費用：6 ヶ月（20,360 円）。納入は 4 月、7 月、10 月、1 月。継続の場合 19,130 円。

＊講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

＊問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号　朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel:０３－３３４４－２５２７（直通）

諸所の企画案内

真命山　霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
慈しみ深き会
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

※注）
諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山　２０２０年 － 祈りの集いのご案内

「祈り」

最高の神秘体験として御聖体の秘跡を戴いてキリストと出会う

毎月第２木曜日（１０:００～１５:００）

指導者　フランコ神父

１月　９日　「キリストに結ばれる」：入信の秘跡の完成
２月１３日　「キリストに生かされて生きる」：永遠のいのちの糧をいただく
３月１２日　「キリストとともに死ぬ」：ほふられた小羊の生け贄に倣う
４月　９日　「過越の神秘の体験」：復活されたキリストと出会う
５月１４日　「聖霊に生かされて歩む」：聖霊降臨の恵みの中で生きる
６月１１日　「キリストの現存の神秘」：「みことば」は私たちの間に宿られる
７月　９日　「一致のしるし、愛のきずな」御聖体から生まれる教会

＊　＊　＊

９月１０日　「御聖体によるいろいろな奇跡」：ご聖体に対する信心の歴史
１０月　８日　「キリストの現存」：信仰のしるしである御聖櫃の美術
１１月１２日　「死に勝たれた救い主の勝利」：終末論の宴
１２月１０日　「私たちの間に生まれるキリスト」：御ことばは「肉」となられた」

申込先
真命山　諸宗教対話センター
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7
e-mail: shinmeizan@gmail.com
前晩17:00まで可
www.shinmeizan.com

講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、

予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を

現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を

当会のHPに掲載いたしますので、

そちらをご覧いただければ幸いです。

担当　中山真里

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

ノートルダム　・　ド　・　ヴィ
〒177-0044　練馬区上石神井４－３２－３５
TEL(03)3594-2247　FAX(03)3594-2254
e-mail　notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想　～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

http://sadhana.jp/　　申込み受付・・開始日の８日前まで

コース	日　時	指導	開催場所	申込み
入門Ｂ	10/25(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1Ｆ (四ツ谷)	来間(くるま)　裕美子※ TEL　090-5325-2518 sadhana12378@yahoo.co.jp
サダナⅡ	10/30(金)17:30 11/3(火)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会・町田黙想の家 (町田市本町田)	同上
広島サダナ Ⅰ＆アドバンス	11/20(金)9:00- 23(月)18:00 *前泊・継続宿泊・通いも可能	Fr植栗 Frアレックス	西日本霊性センター (広島市安佐南区)	西日本霊性センター 受付デスク TEL082-239-0034
入門Ｃ	11/29(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1Ｆ (四ツ谷)	来間(くるま)　裕美子※
フォローアップ	2021 年 1/17(日) 9:30-17:00	Fr植栗	同上	同上
フォローアップ 新Ⅰ	1/24(日) 9:30-17:00	サダナチーム	同上 ＊16 時～ミサがあります ＊椅子での黙想です	同上

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518（来間）までお問い合わせください。
※不在の場合は、渡辺由子　Tel&Fax ： 042-325-7554

◆サダナⅠ：サダナ１において、呼吸や身体感覚を鋭敏に感じることと心の静まりを入り口として、深みに進みます。
◆サダナⅡ：サダナ１の土台を生かしながら、さらに奥へ、高みへと向かいます。
◆入門Ａ．Ｂ．Ｃ：本来は、宿泊して営む「サダナ１」の内容を分割して体験していただくプログラムです。
◆フォローアップ…サダナⅠを終えた方。

念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日
　　１４：００～１６：００(講話と念祷)
主催：慈しみ深き会

指導：九里（くのり） 彰 神父（カルメル修道会）

年内中止のお知らせ

岐部ホールより感染防止対策の規定が出されました。
それによれば、最大２０名までの利用であればOKということです。
この「念祷の集い」は、不特定多数の方が２０名以上集まるため、
年内の開催は難しいということになりました。
なお、来年１月からは予約制で行ないたいと思います。
この予約受付に関しては、追ってお知らせいたします。

＊問い合わせ先：０４２―４７３―６２８７　篠原

※各黙想会内容･日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院　（２０２０年）

◎ 所 在 地：　〒520-0106　滋賀県 大津市 唐崎　１丁目　３－１
Tel：　077-579-7580
Fax：　077-579-3804
E-ﾒｰﾙ：　karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交　通：　JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 黙　想

A.　８日間の個人指導による黙想

初日は、18 時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

① 5 月 10 日（日）～　5 月 18 日（月）
② 8 月 14 日（金）～　8 月 22 日（土）
③ 10 月　4 日（日）～　10 月 12 日（月）
④ 12 月 27 日（日）～2021 年 1 月 4 日（月）

B.　祈りの体験：週末 3 日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

① 2 月　7 日（金）～　2 月 9 日（日）
② 2 月 28 日（金）～　3 月 1 日（日）
③ 3 月 27 日（金）～　3 月 29 日（日）
④ 6 月 12 日（金）～　6 月 14 日（日）
⑤ 7 月 17 日（金）～　7 月 19 日（日）
⑥ 9 月 18 日（金）～　9 月 20 日（日）
⑦ 11 月 13 日（金）～11 月 15 日（日）

C.　講話　黙想（奉献生活者のため）

6月22日（月）夕食 ～ 6月30日（火）昼食
九里　彰 師（カルメル会）

◎　対　象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎　霊的同伴者：　司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎　申込み：1）氏名(ﾌﾘｶﾞﾅ)　2）〒住所　3）電話番号　4）希望日程(番号)を書いて郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。

唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。
８日間の黙想は　先着順　１１名、週末３日間の黙想は先着２名　です。

いずれの場合も、１０日前までに申し込んでください。

D.　独身女子青年の集い

7月25日（土）～ 26日（日）
9月12日（土）～13日（日）
11月7日（土）～ 8日（日）

申込み：唐崎修道院　Sr.　桂川美代　（℡ 077-579-2884）

E.　その他：　司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。

（但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除きます。）

『霊性センターニュース』
＊郵送お申込みのご案内＊

ご郵送は、基本的に１月から 12 月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から 12 月までとなります。
例：６月申込の場合は、７月号~12 月号（但し８月号は休刊）となり、
５冊となります。　ご希望の月数×250 円程度の献金を下記口座へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座：　００９１０－６－３３３１８４
加入者名：　カルメル霊性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、郵便番号・住所、電話、Fax 等ご明記ください。
また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。
その場合は、「献金」とご記入お願い致します。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院　「霊性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

http://www.carmel-monastery.jp
Google：「カルメル会」で検索できます

男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき

今年のカルメル会・年次黙想会は、コロナ禍のために、会員、指導司祭の移動が難しく、各修道院で行うこととなりました。ここ宇治修道院では、共同体で相談して、基本的にフランシスコ教皇の公文書を読みながら、又、緊急でお願いした3人の指導者の導きで黙想を行うことができました。伺った豊かな内容の中で、昨年教皇フランシスコが来日された時、日本での最初のメッセージ「すべてのいのちを守るとは、まず、じっと見つめるまなざしをもつことです」（司教団との会合の中で語られた）の言葉が強く残りました。

コロナ禍の出口がいまだ見えない中、この言葉を今一度心に留めたいと思っています。

もう一つ、心に残った祈りの言葉をご紹介します。

《聖霊への祈り》

聖霊がいなければ、神さまは遠いところにいらっしゃいます
聖霊がいなければ、イエス様は過去のものになってしまいます。
聖霊がいなければ、福音は命を与えない言葉です。
聖霊がいなければ、カトリック教会はただの組織です。
聖霊がいなければ、教会の権威は奉仕ではなく、支配になります。
聖霊がいなければ、福音宣教は義務になります。
聖霊がいなければ、典礼は空っぽの儀式になると思います。

つい、閉塞感に捕らわれがちな今、コロナ禍中にあってもわたしたちを導きつづけていてくださる聖霊に心を開きながら、パンデミックの中で新しい創造が行われていきますように祈りたいと思います。

わたしたちが経験した、パンデミックの中の新しい生活様式の一端でした。

（中川博道 o. c. d.）

追伸：

『霊性センターニュース』224 号以来、貴重な原稿をお送りつづけてくださった石原淳子様より昨号（367 号）をもって筆を置かれるとのお知らせをいただきました。その中で、「自分でもびっくりいたしますが、日々の生活の中で得るこの『深い淵からあなたに呼ばわる』ひとときは、恵みと言い表すほかない『満ち満ちた時』の拝受でありました。」とのお言葉をいただきました。長きにわたるご執筆に心からの感謝をいたします。

DECOR
REGINA
CARMELI

VI. イエズス